

# (独)日本原子力研究開発機構「先端基礎研究センター 設立20周年記念シンポジウム」ご挨拶

生川 浩史

文部科学省研究開発局 原子力課長



日本原子力研究開発機構先端基礎研究センター設立20周年記念シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶申し上げる機会を持つことができ、誠に光栄に存じます。

まず、昨年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、文部科学省においては、これまで、原子力に関する研究開発や人材育成の取組を進めてきました。これにあたっては、原子力機構の皆様から多大なる御協力をいただき、一体となって事業を進めてきたところです。しかし昨年、福島原発事故が発生し、その後はまず事故の早期収束を最優先に、総理を本部長とする原子力災害対策本部の下、政府一丸となって全力で取り組むとともに、今後も福島原発の廃止措置や周辺地域の除染など、未曾有の原子力災害からの復興に向けた取組を長期にわたって進めていくことが必要不可欠になったところです。

原子力機構におかれましても、福島原発事故への対応には迅速かつ積極的な貢献をいただいております。これまでも除染のための研究開発を開始され、政府の除染モデル事業にも主体的に取組まれるとともに、放射線の人体への影響に関する正確な情報提供を目的とした福島県が行う講習会への専門家派遣も実施頂いております。さらには、福島原発の廃止措置に必要な技術開発についても、我が国のロードマップに沿った取組を開始して頂いているところです。日本政府としましては、被災された方々が出来るだけ早く安全・安心な生活を取り戻すため、現地のニーズや要望を踏まえ、事故の収束及び復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後とも引き続き原子力機構のご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

このように今後、原発事故への対応に全力で取り組んでいく必要がある一方で、エネルギー政策、原子力政策の在り方については、福島での事故を考慮し見直しが必要であり、現在政府において夏を目処に結論を出すべく広範な議論を進めているところです。これらの議論は、明らかに原子力機構の研究開発活動の方向性、特に核燃料サイクルや高速増殖炉の分野に大きな影響を与えることになるでしょう。他方で、原子力関連の基盤技術を維持、向上させるための基礎研究、人材育成の取組、国際的な協力活動等は、定められる原子力政策の如何に関わらず、引き続き進めていくことが重要かつ不可欠であると考えています。

先端基礎研究センターにおかれては、これまで、原子力科学の萌芽となる未踏分野の開拓に向け、先導的・革新的な基礎研究、国際的研究拠点の形成、人材育成といった取組に関して精力的かつ重要な努力を行ってきました。このような取組は、原子力のエネルギー利用の基盤を支えていくことはもちろん、例えば放射線の医学的利用といったエネルギー以外の様々な分野の発展に貢献するものであり、今後ともその研究開発の重要性は変わりません。また、貴センターで実施される先端的な基礎研究は、物理学や化学等の学術分野の発展にも寄与するものであり、貴センターにおかれては、これまで最先端の学術論文を多数発表される等の優れた成果を上げ、その活動が国際的にも称賛されています。貴センターのこれまでの取組と成果は、まさしく原子力科学があらゆる科学・工学分野の基礎を支える科学技術であることを表わしていると思います。更には、貴センターにおかれては、このような革新的研究を進めながらも、原子力機構における除染に関する技術支援や専門家派遣に協力されるとともに、土壌・汚染水等の除染に関する研究を進めておられることを十分承知しております。福島原発事故の余波があるかと思いますが、引き続き研究活動や人材育成の取組に邁進して頂きたいと思います。今後とも貴センターにて、多くの世界的にも素晴らしい革新的な研究成果や、一流の人材が創出され続けることを心から祈願しております。

最後に、このシンポジウムの御成功とご列席の皆様のご更なる御発展を祈念しまして、私からのご挨拶とさせていただきます。